

パイロット事業 Step4 実施報告

パイロット事業 キャラバンメイトの活動報告

～魚沼地区での取り組み～

氏名：山田小百合¹ 河野 芳江² 小林 千里³

所属：特別養護老人ホーム八色園¹ 介護老人保健施設越南苑² ゆきぐに大和病院³

1. 平成 26 年度 キャラバンメイトの活動報告

① 認知症サポーター養成講座（南魚沼地域振興局と共催）

開催日 平成 26 年 9 月 24 日（水） 11：00～12：00

開催場所 南魚沼警察署内

対象者 南魚沼警察署職員及び管轄の交番職員

依頼内容 新人警察官およびベテラン警察官でも、認知症者への対応、更にはご家族との対応で苦い経験をされた方が多い状況を受けて、認知症とはどのような病気なのか、家族に対してはどう接すればいいかを講義して欲しい。

講座を終えて、認知症の方に接した事のあるという方が、参加者数十名の中に 2 人だけという状況であった。テレビなどでは取り上げられることが増え、認知症と言う名称は耳にすることが増えたが、やはり、実際職務質問などを行う事になった場合には、どうすればいいのか。ご家族はどのような思いなのかを伝えられるよう意識をして講義を行った。

② 地域での活動

開催日 平成 26 年 11 月 10 日

内容 平成 26 年認知症対策推進委員会（南魚沼市・湯沢町対象）

新潟県作業療法士会として参加。現在、地区の委員として登録され、認知症の方々に対する団体としての取り組みなどを報告している。

委員会のメンバーは、医師、保健師、認知症認定看護師、介護支援専門員、警察署所長。年度の取り組みに合わせて、参加者も流動的に召集される。作業療法士会は、昨年度より参加。

今年度は、病院での対応に力を入れ、各医療機関でのユマニチュード研修会の企画、導入について。

先駆的に取り組んでいる、湯沢町の SOS ネットワークの取り組みについての活動報告などが行われた。

2. 今後の課題

上記の活動を通して、これほどの情報社会であっても、一般住民の認知症に対する理解がまだまだ不十分であることを実感した。啓発活動に力を入れる必要と同時に、健康な方々、初期段階での本人、家族への介入の大切さも感じている。地域では、様々な団体、地域住民による認知症サポーター養成講座が行われているようだが、もっと具体的に、誰でもなれる病気であり、問題となる周辺症状は、出現を抑えることが出来るというところを何とか伝えていかなければと考える。

パイロット事業 キャラバンメイトの活動報告

～上越地区での取り組み 3 例報告～

氏名：山岸麗¹、小山智彦²、布川恭平³、吉田千夏³、横田恵理子¹、小熊明子⁴、早津宗吾⁵、山崎正人⁵

所属：えがおと虹の森ふもと¹、サンクス米山²、新潟県立中央病院³、さくら聖母の家⁴、厚生連上越総合病院⁵

1. 平成 26 年 11 月 29 日 サポーター養成講座 報告

(1) 活動のきっかけ

メイトの自宅が町内にあり、講座を説明したところ開催できることになった。

町内でも高齢化が進んでおり、町民の介護予防、認知症予防、また認知症への意識も高まっていたことも開催に至った背景にある。

(2) 準備について

事前に担当決めし、担当はグループワークの司会進行、寸劇（脚本、配役）、講師を決めた。

講義の流れや内容の確認、寸劇のシナリオ確認から練習、グループワークの進め方とまとめを確認した。

(3) 実際の運営

運営に関しては町内会役員 3 名と協力して行った。講座はできる限り内容を簡略化することに加え、最新の知見など興味を持ってもらうことを意識した。グループワークでは一般に持たれている認知症のイメージや不安に思っている認知症の症状を挙げていただきながら主に中核症状と周辺症状に分類し認知症についての理解を深められるよう配慮、各グループには OT が一人配属し対応した。また寸劇はできる限り地元の言葉や行事の内容を盛り込むことで、身近に起きうる問題で、参加者の力が必要なことをわかってもらうようにした。

(4) 評価

参加者、役員の評価は高く、好評な講座を開催できた。要因としてはできるかぎり身近なものを利用し意識してもらうようにしたこと、寸劇には笑いを盛り込んだりしたことが挙げられる。またグループワークや質問コーナーなど参加型の時間も多くとるようにした。

後日開催報告を受けた町内管轄の地域包括支援センターより今後の開催についても協力していきたいと申し出があった。準備段階や実際の運営時には連絡不足であったが、地域包括との連携につながる一助となったと考えている。

(5) 今後の課題

前述のとおり役員からも好評であり、次年度 2 回程度のフォローアップ講座の依頼を受けた。同地域で 3 回程度の講座を行うことになり、内容も工夫が必要である。認知症キャラバンメイトのコンセプトを大切にしつつ、作業療法士なりの視点で今後も関わっていききたい。合わせて、今後は町内との連絡だけではなく地域包括とのスムーズな連携が図れるよう連絡体制を検討していきたい。

2. 平成 26 年 10 月 16 日 サポーター養成講座 報告

(1) 活動のきっかけ

新潟県士会の理事に連絡が入り、理事からの紹介で開催することができた。

(2) 準備について

事前に担当を決め、2 度ほど寸劇の練習をした。担当は寸劇（脚本、配役）、講師を決めた。また、メイトではないものの地域の作業療法士 2 名の協力が得られた。グループワークに対し進め方の確認を行った。

(3) 実際の運営

今回の講座では初めて寸劇に挑戦した。今までは平日の講座開催だけであり、初めて休日に講座が開けたことでメイトの参加人数が多かったことによる。グループワークでは KJ 法を用い認知症についてのイメージや症状を整理し各グループでの発表まで行った。また今回は県士会からの紹介であり、作業療法士紹介にも力を入れた。全体的には好評を得ることができたが、準備不足は多く、次回への反省も多かった。

(4) 評価

参加者の評価は高かったが、初めての寸劇なこともあり、登場の入りなど準備や練習不足が多かった。またグループワークも入れたことで時間がかかってしまい、内容を整理することが必要だった。またグループに OT を配属したが各々により整理方法がまちまちでよろず相談的に終わってしまうこともあった。

(5) 今後の課題

前述のとおり、反省点も多かったが、好評を得ることができた。また自分たちで見つけたり、市役所からの紹介でなく県士会からの紹介とのことで作業療法士のネットワークを感じることができた。

3. 平成 26 年 10 月 9 日 障害者、福祉用具体験、サポーター養成講座 報告

(1) 内容

今回直江津小学校でサポーター養成講座を行えたので報告する。なおこれは学校側の生涯教育授業の一環であり、後日文化祭で発表していただくことになっていた。

(2) 活動のきっかけ

メイトのご家族が貴学校に通学しており、学校側に提案したところ開催となった。

(3) 準備について

障害者、福祉用具体験については Aviritys 様よりご協力をいただいて物品を整えた。また、養成講座に関しては学校側より映写機を貸していただき講座を行った。

(4) 実際の運営

運営に関しては①障害者、福祉用具体験②サポーター養成講座で行った。

①に関しては i) 障害者体験 ii) 車いす体験 iii) 足こぎ車いす体験とグループに分け回っていただく事にした。小学生のため遊んでしまうかと思われたが、積極的に参加していただき、若干騒がしくなると担任の先生から注意していただけたのでスムーズに進めることができた。生徒からも好評を得た。

②に関しては教室内でメイトが講師役となり作業療法紹介、認知症について、サポーターについての内容で行った。児童によるロールプレイも行い、実際にどう感じたかどう見えたか、児童からの意見も出せるように取り組んだ。また藤川幸之助様の「大好きだよキョちゃん」の朗読を行い、認知症を身近なこととして感じてもらえるように努めた。

(5) 評価

上越市内で過去に 8 回ほど行った小学生対象の講座の 9 回目に当たるとのことで地元新聞社からの取材を受けた。また上越市では 10 代、20 代でのサポーターを増やすとのが目標であるとのことだった。全体的に積極的に参加され、遊ぶような場面が少なかった。これは貴学校が障害児教育にも興味を示され、実際に身体障害児が講座にも参加される環境がいい結果を生んだ結果と思われる。

障害者、福祉用具体験は学校側からの強い要望で開催にこぎつけた。また後半のサポーター養成講座では上越市だけでなく、全国から小学生向けの資料を集め工夫することができた。子どもたちの活発な意見もあり講座自体も時間を超えるほどであった。

(6) 今後の課題

小学生対象は初めての経験であった。また、市内でも少なく、今年度はこの回だけだったとのことだった。上越市としても今後若い世代をいかにサポーターとして養成していくかは課題であった。

認知症サポーター養成講座

～県央地区～

氏名：田上晴子¹ 上杉文都²

所属：介護老人保健施設 晴和会田上園¹ 晴陵リハビリテーション学院²

1. キャラバンメイトの活動報告

実施地区：田上町

実施者：石田晴子（介護老人保健施設 晴和会田上園 作業療法士）松澤佳子（居宅ケアマネ）
番場創一（施設ケアマネ） 高岡健一（介護士）

日時：平成27年1月24日（土） 9：00～10：45

会場：田上町後藤地区公民館

参加者：21名（主に60～70歳代）

2. メイト活動のきっかけ

平成27年1月5日 田上町より 後藤地区の認知症サポーター養成講座の依頼あり

3. 準備について

平成27年1月15日・24日 田上園内にて打ち合わせ 各30分程度
プロジェクター、スクリーンは町が準備し、ノートパソコンは園で準備
認知症サポーターのパワーポイントは町で準備してあるものを利用
テキスト、オレンジリングは町で準備

4. 実際の運営

- ・認知症および認知症サポーターについて（パワーポイント使用） 30分 松澤
- ・認知症予防体操と簡単な生活指導 15分 石田
肩首の体操 拮抗体操 ハトキツネテスト 認知症を予防できそうな田上町の事業や施設の紹介
- ・休憩 10分
- ・ロールプレイ+グループワーク事例検討 20分 番場 高岡
 - ① 飯食べてない
 - ② 財布とられたの悪い対応の後に正しい対応方法をグループで話し合う

・質疑応答

10：30までの予定であったが質疑応答がたくさんあり10：45まで延長して行った。
参加者には家族に認知症がいる人もおり活発な意見交換が行われた。



ロールプレイの様子

5. 総評

今回、いずれのメイトも地区で行う講座は初めての経験だった。区長の呼びかけにより参加者 21 名達した。すでに認知症の家族を持つ参加者も多く、長い月日をかけて築き上げられた地区のコミュニティもあり、事例検討の対応方法も適切なものばかりであった。

質疑応答も参加者同士で意見を出し合う場面も多く見られた（徘徊、施設利用について、施設利用の金銭的な問題等について話し合われた）

参加者はすでに認知症に対する知識が豊富である方が多かったため、今回の講義内容は、すでに知り得た情報であったかもしれないが、認知症の方を地域で支えていくということが、少しでも理解していただけるものであったらと考える。

新潟県作業療法士会 事業報告

～西蒲区・西区・北区での平成 26 年度の取り組みについて～

氏名：吉井真里¹ 石井登² 田中壮太² 広井千尋³ 橋本由美⁴ 斉藤康子⁵ 河治聡子⁶ 山倉宏美⁷ 松岡大輔³
大谷内和幸⁸ 梅澤望⁸ 大矢直子⁸ 長谷川紀⁸ 稲田征男⁸ 仲納林千佳⁸ 伊藤春香⁸ 岡田順平⁸ 松井美樹⁸
田澤翔⁸ 米倉佐恵子¹⁰ 片山悠子¹¹ 笹川裕美子¹¹ 森山友香¹¹ 熊倉裕紀³、岩村忠裕³、永井瞳²、
西山あゆみ²、上原夏紀²、青木良介¹²

所属：特別養護老人ホーム虹の里¹ 新潟西蒲メディカルセンター病院² 新潟信愛病院³
デイサービスセンターはやどおり⁴ 介護老人保健施設みそのぴあ⁵ 新津医療センター病院⁶
介護老人保健施設尾山愛広苑⁷ 岩室リハビリテーション病院⁸ 白根健生病院⁹
介護老人保健施設いわむろの里¹⁰ 介護老人保健施設しんあい園¹¹ 白根大通病院¹²

1. 認知症カフェかくだ山 事業報告

頻度：毎月 1 回(巻開催 第 2 金曜日、西川開催 第 2 土曜日)

内容：平成 26 年 4 月から西蒲区にて地域包括支援センターが主体となり認知症カフェかくだ山実行委員会を立ち上げ、西蒲区（巻・岩室・西川）にて認知症カフェを開催。地域包括支援センター、認知症家族の会、居宅介護事業所、区役所職員、訪問マッサージ、通所リハビリテーション職員、一般市民等が運営スタッフとして参加されており、西蒲区の作業療法士も一緒に参加し企画・運営に携わっている。
平成 26 年 8 月 30 日には認知症カフェ「かくだ山」実行委員が中心となり、映画『痴呆性老人の世界』の上映会を実施。500 人以上の方が参加された。

平成 27 年 12 月 19 日には巻、20 日には西川の認知症カフェにて住民を対象とした認知症予防における講演会を実施。

頻度：毎月第二金曜日(巻地区)・第二土曜日(西川地区)

課題：地域での認知症に対する関心は高いものの、認知症カフェへの住民の参加者が少ない状態。地域住民のニーズに応じた認知症カフェの形に今後認知症カフェを展開していく必要がある。



2. 認知症サポーター養成講座 事業報告

日時：平成 26 年 9 月 11 日（木）

場所：新潟市立和納小学校

対象：和納小学校 4 年生、保護者

内容：地域包括ケアセンター岩室が主体となって行った認知症サポーター養成講座に、同じ地区のキャラバンメイトとして協力させて頂いた。

3. 認知症サポーター養成講座 事業報告

日時：平成 26 年 9 月 17 日（水）

場所：医療法人 新潟西蒲メディカルセンター病院

対象：病院職員

内容：院内研修として認知症サポーター養成講座を実施。常に認知症の患者様や認知症を介護している家族と接する職種として、認知症サポーターの存在を周知して頂くために院内研修にて認知症サポーター養成講座を実施。

4. 出前講座 事業報告

日時：平成 26 年 9 月 24 日（水）

場所：尾山団地公民館

対象：尾山緑会

内容：認知症の症状と予防についての内容を中心に、寸劇やクイズを交えて講座を行った。

5. 認知症サポーター養成講座 事業報告

日時：平成 26 年 10 月 15 日（木）

場所：新潟市立巻東中学校

対象：巻東中学校 中学 2 年生

内容：地域包括ケアセンター巻が主体となって行った認知症サポーター養成講座に、同じ地区のキャラバンメイトとして協力させて頂いた。

6. 認知症サポーター養成講座 事業報告

日時：平成 26 年 11 月 3 日（月）

場所：葛塚コミュニティーセンター

対象：一般住民

内容：今村徹医師による講演と、施設スタッフによる寸劇を行った。

7. 認知症サポーター養成講座 事業報告

日時：平成 26 年 11 月 16 日（日）

場所：石動会館

対象：石動自治会

内容：認知症の症状と対応方法についての内容を中心に、寸劇やクイズを交えて講座を行った。

8. 認知症サポーター養成講座 事業報告

日時：平成 26 年 11 月 21 日(金)

場所：田上町保健福祉センター

対象：認知症予防教室（元気はつらつ教室）参加者前期・後期
一般住民

内容：田上町役場より認知症予防事業の一環として認知症予防をテーマとした講演依頼があり、新潟県作業療法士会で行わせて頂く運びとなった。田上町での認知症予防事業の一環としての講演だったため、認知症に関する基礎知識（疫学・症状・対応など）だけでなく認知症の予防方法も含んだ内容で行わせて頂いた。

結果：地域住民及び田上町役場職員・地域包括ケアセンターの職員等総勢 70 人余りの方が参加して下さった。実際に日常生活で見受けられることが予想される場面を想定した事例を劇で行いながら、正しい対応方法についてクイズ形式で参加者にも考えて頂いた。アンケートの結果、認知症に関する知識や予防方法における理解を広めることができたとの声が多く寄せられており、認知症に関する基礎知識や予防方法について田上町に周知することができた印象を受ける。



9. 認知症カフェかくだ山 巻店（講演） 事業報告

日時：平成 26 年 12 月 19 日(金)

対象：認知症カフェ参加者・運営スタッフ

内容：認知症カフェかくだ山にてミニ講演として認知症予防をテーマとした講演を開催。認知症カフェの参加者及び運営スタッフ総等総勢 20 名ほどの方が参加された。

10. 認知症カフェかくだ山西川店（講演） 事業報告

日時：平成 26 年 12 月 20 日(土)

対象：認知症カフェ参加者・運営スタッフ

内容：認知症カフェかくだ山にてミニ講演として認知症予防をテーマとした講演を開催。

11. 出前講座 事業報告

日時：平成 27 年 1 月 28 日（水）

場所：内島見公民館

対象：内島見サロン

内容：認知症の症状と予防についての内容を中心に、寸劇やクイズを交えて講座を行った。

12. 出前講座 事業報告

日時：平成 27 年 2 月 22 日（日）予定

場所：東栄町東自治会公民館

対象：東栄町東自治会

内容：認知症の症状と対応方法についての内容を中心に、寸劇やクイズを交えて講座を行う予定。

総合学習「認知症について知ろう！」

～濁川小学校5年生52名、認知症サポーター誕生～

氏名：山倉宏美、山崎陽子、長井紹美、田宮亘、須佐睦子、棚橋美里、橋本由美、牧野奈津江、堀麻美、
鈴木倫子、大谷内和幸、斎藤康子、田中壮太、大矢直子、乙川知子 福田裕子 斉藤裕久
所属：新潟市北区・西蒲区

1. 認知症サポーター養成講座

○北区のキャラバメント数は12名。第一弾として濁川小学校へ相談員を通して依頼した。
学校側と交渉し5年生対象での開催となる。

日時：平成27年3月2日（月）14：00～15：35

場所：濁川小学校

対象：濁川小学校5年生52名、およびその保護者

内容：総合学習の一環として「認知症を知ろう！」のテーマで行う。寸劇やクイズを通して楽しく認知症を学び、地域で見守るサポーターとして活躍してもらう。

①はじめに(10分)

- ・自己紹介（仕事をしている写真を交えて）を通して作業療法士の紹介



- ・高齢者向けに行っている簡単な頭の体操（後出しジャンケン）



②認知症について(70分)

(1)講義 (概論)

- ・日本の高齢社会と認知症
- ・認知症とは
- ・行動心理症状について (元気がなくなる・物を盗られた)

(2)寸劇 (症状と対応について)

- ・ちびまるこちゃん劇場を通して、中核症状、行動・心理症状を学ぶ。

○中核症状：ラーメンを食べたことを忘れる、お昼なのか夕方なのか分からない

○行動・心理症状：

その1：元気がなくなる

悪い例の劇：不安な気持ちからぼんやり引きこもりがちになり周りがとがめ、ますます元気がなくなり症状が悪化する。

良い例の劇：不安な気持ちをわかってあげ優しい言葉をかけることで症状の改善へ

その2：「ものをとられた」と思い込む

悪い例の劇：しまった場所を忘れ誰かが盗ったと思い込み、周りがとがめ元気がなくなり症状が悪化する。

良い例の劇：とがめるのではなく、わかってあげ一緒に探して手助けすることで症状の改善へ

※悪い例の劇→おじいちゃんの気持ちを考える→発表→講座・解説→良い例の劇→気持ちを考える→発表



(3)○×クイズ

- ・体を動かしながら○×に分かれる。(BGM：おどるポンポコリン)
- 1) 認知症の人は、覚えているけど確認するために何度も同じことを言ったり聞いたりする？
- 2) 認知症の人の症状でみられるものは、物忘れのみ？
- 3) まるこのおじいちゃん、1年後は寝たきり？
- 4) 銀行の通帳を自分でしまい忘れたのに、「盗られた」と怒って探している認知症のおじいちゃん。一緒に探してあげる？
- 5) 認知症の人には、「物を盗られた」と思い込む症状が必ず起こる？



③施設での活動紹介(5分)

- ・認知症の利用者が作った作品や活動をスライドで紹介
- ・認知症があっても役割を持って生き生きと生活しています！

④認知症サポーターについて (10分)

- ・認知症サポーターの役割について

⑤アンケート記入

⑥写真撮影



準備：

○学校側との打ち合わせ

- ・会場確認、借りられるもの、児童が準備するもの
- ・講座内容確認、寸劇への参加依頼
- ・写真撮影について（個人情報の取り扱い）
- ・オレンジリング配布に関して、
- ・社協・包括スタッフ見学について
- ・メディア取材に関して（当日、地元紙の取材あり）等

○その他準備

- ・講座データ作成、寸劇練習、寸劇に使用する物品準備、配布資料準備・作成

評価：・小学生対象ということで、講義形式ではなく、劇やクイズを通してわかりやすく認知症について勉強できた。対応方法を実践することは難しいため、認知症の人の気持ちを考えてもらった。

- ・社協や包括スタッフも見学にきてもらったことで、作業療法士への依頼も今後増えると考ええる。

今後の課題：・1回のみで終わることなく継続して毎年5年生対象に実施していくために学校側と連携をとる必要がある。誰が中心となり連絡をとっていくのか。

- ・講座開催に際して、公休や有給をとり参加しているのが現状である。外部に出ることが難しい施設もあるため講座回数が増えた場合の対応。スタッフの確保。

認知症サポーター養成講座活動報告書

～新潟市西区 職場内でサポーター養成講座を行いました～

氏名：片山悠子、笹川裕美子、森山友香

所属：介護老人保健施設 しんあい園

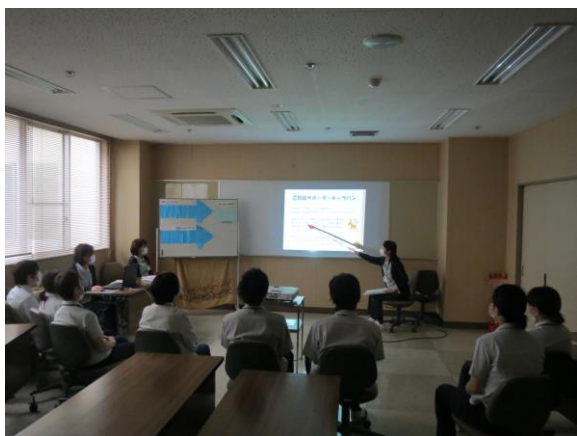
開催 日時 平成 27 年 2 月 25 日（水） 13：40～15：00 受講者数 8 名
平成 27 年 3 月 11 日（水） 14：00～15：00 受講者数 9 名
場 所 しんあい園 介護教室
受講対象者 しんあい園職員
目 的 正しい認知症の理解を深めるため、職員研修の一環として実施

<内容>

○講座の構成	サポーターキャラバンとは	13：40～13：50	(14：00～14：10)
	認知症を理解する①②	13：50～14：20	(14：10～14：40)
	サポーターにできること	14：20～14：30	(14：40～14：55)
	質疑応答	14：30～14：40	(14：55～15：00)

() 内は 3 月 11 日

○講座の様子



スライドを使って



パネルを使って



○参加職員からの感想

- ・もっと詳しく認知症について知りたいと思った。
- ・利用者様への接し方の向上につながりました。
- ・わかりやすい説明でよかったです。
- ・利用者様の立場になり、ゆっくりと話を聞くよう心掛けたいと思いました。
- ・ゆっくり理解しながらの進行だったのでとても分かりやすかったです。

○講座を終えて

- ・当日の勤務者数の都合上、参加者が少なく残念だった。
- ・初めての講座ということもあり準備に時間を要したが、今回の準備・経験を元に今後は地域への活動へ活かしたいと思った。
- ・入所者様の似顔絵を使用したパネルを製作使用したことでイメージが湧き、伝わりやすかった。
- ・今回は職員向けの講座を行ったため、内容にやや専門的なものを含めたが、結果もっと認知症について知りたいと感じて下さり、施設内でのモチベーションの向上につながった。
- ・講座そのものが分かりやすく要点をとらえている内容であるため、新人教育として使用できるのではないかと提案があり、協力したいと思った。

キャラバンメイト長岡地区の取り組みについて

～地域で認知症の方・その家族を支える作業療法士を目指して～

氏名：石田郁美¹ 猪飼康子¹ 小野塚美歩¹ 小越佐江子² 佐々木利絵子³ 高頭美恵子⁵ 西澤百代² 服部美鶴⁴
所属：田宮病院¹ 生協かんだ診療所² 長岡赤十字病院³ 特別養護老人ホームわらび園⁴ 厚生連魚沼病院⁵

1. 主な活動内容

- ・認知症サポーター養成講座の実施（計9回の実施）
主な対象者：総合生協の会員・職員、バス会社職員、地域住民、老人クラブ、シルバー人材、小学生と保護者
- ・市で開催されている家族会への参加

2. 地域とのつながり作り

- ◆地域や行政とのつながりを大切にする。誘われたら断らないという意識で行う。今年度は以下の様な場に積極的に参加してきた。
- ・キャラバンメイト コアチームへの参加
- ・キャラバンメイト研修への参加
- ・養成講座における他団体との共同開催
- ・認知症の人と家族の会への参加
- ・懇親会への参加

3. メイト活動の流れ

- ①市から養成講座の依頼あり
- ②メイトに参加者を募る
※認知症地域支援推進員の方がメイトの調整を行っている
- ③対象者に合わせて講座の内容を検討する
- ④市・県士会に計画書を提出する
- ⑤主催者と打ち合わせを行う
- ⑥養成講座実施
- ⑦終了後報告書・アンケートを市・県士会に提出する

4. 講座準備

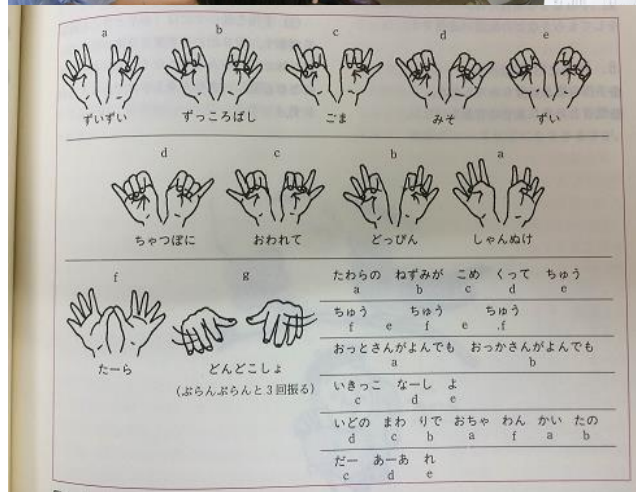
- ◆対象者のニーズに合わせて講座内容を検討する。当日の流れ、使用する物品なども考える。
→参加者はどんな人か？どんなことが知りたいか？を配慮する

5. 実際の講座運営について

◆楽しみながら学んでいただく

実体験の方がわかりやすく興味がわくと考え、参加者に考えたり体験してもらう機会をもつようにしている

- ・アイスブレイク
- ・寸劇
- ・グループワーク
- ・認知症予防の方法を実践 を交えて行う。



<講義の様子>

<認知症予防の指体操>

◆作業療法の宣伝も一緒に行う

認知症の作業療法についての認知度は低い現状にある。作業療法士は認知症のリハビリテーションを担う職種であることの理解を持っていただく機会にする。

- ・臨床場面での認知症の方への関わり方を伝える
- ・認知症とは怖い病気ではないこと、『認知症は身近な病気で誰もがなりうるかもしれない、だからよく知り、考えよう』ということ伝える

6. 評価（アンケート結果）

◆参加者の意見

- ・専門の方からわかりやすく説明してもらえて勉強になった
- ・実演を行ったことで、現実味を感じて対応を考えることができた
- ・個人できることとして、おかしいなと思ったら気に掛けて見守り、声をかけていきたい
- ・援助はできなくても理解者でいたいと思う

◆メイトの意見

- ・参加者が認知症についてある程度知識をもっていた。
- ・参加者同士が顔見知りで、人数も少なかったため意見が出しやすい雰囲気だった。
- ・認知症の介護に携わるかもしれない年代の女性が多く、実際身近に認知症の方がおられるという方々も参加されていた。
- ・事例を通してのグループワークでは、認知症の方を抱える「家族としての立場」「近所の人としての立場」の両面での対応をグループで検討してもらったが、各グループとも活発な意見交換がなされており、関心・理解を深めながら共有出来た時間であった。
- ・主催者側から以前別の機会に講座を開催した際、参加者の方々がサポーターとしての役割を気負い過ぎるあまり、プレッシャーとして感じる傾向が伺えたとの情報を聞いたため、まずは認知症のことについて理解すること・受け入れながら見守ることがサポーターとしての大切な役割になることを伝えた。

7. 今後の課題

- ・様々な対象者に合わせた養成講座のマニュアル作り（学校、企業、高齢者向け）。
マニュアルを作成することで、講座の準備・運営が行いやすくなる。
- ・作業療法士の認知度を上げ、認知症のリハビリテーションを行う仕事であることを理解してもらっていくこと
- ・地域で生きる作業療法の模索、できることは多いがどうしていくか？まずは実践、地道な活動を行っていく

柏崎・刈羽地区での認知症への取り組み

～キャラバンメイト活動～

氏名：横田剛¹⁾ 松井佳哉¹⁾ 佐藤弘美¹⁾ 小原雄大²⁾ 山岸英恵³⁾ 村山央⁴⁾ 丸山友美⁴⁾

所属：柏崎総合医療センター¹⁾ 瀬波病院²⁾ 特別養護老人ホームくじらなみ³⁾ 独立行政法人新潟病院⁴⁾

1. はじめに

柏崎刈羽地区では8名の作業療法士が認知症キャラバンメイトになった。地域での作業療法士の存在感が希薄なため、積極的にアピールしていくことが必要であった。いくつかの活動をまとめて報告する。

2. 打ち合わせ・顔合わせ

同じ作業療法士でも地域での横のつながりや連携が少ない。キャラバンメイトとしてどのように活動するかを考えるために何回かの打ち合わせを行った。この打ち合わせ自体が横のつながりを作り、地域への第一歩の取り組みになると感じた。

3. 地域の茶の間

後期高齢者の閉じこもり予防目的に所属であるJAが行っている。この内容を認知症サポーター養成講座に変更してはどうかと提案し、5回行った。サポーター養成というよりも自分自身の認知症予防のために「地域づくり」を行おうという視点で行った。会場には地域包括支援センター職員や認知症地域推進員も同席することもあり、連携が深まった。

4. 地域の公会堂にて認知症サポーター養成講座開催

地域包括からの依頼で地域に認知症の方がいて、実際にトラブルになりそうなので、その人を支える地域づくりの観点から講座を行って欲しいと依頼あり、開催した。

5. 地域の町内会にて認知症サポーター養成講座開催

認知症地域推進員からの依頼で3か所開催。導入編だけでなく、より実践の要望のある場所もあり、その都度対応した。

6. ふれあいサロン代表者への講座開催

社会福祉協議会が移管をうけている地域の100か所以上の高齢者向けサロン事業の代表者に対して、認知症講話や実際のアクティビティ支援のノウハウなどをレクチャーする講座を行った。

7. 若年性認知症の会への参加

あすなる会という若年性認知症の会があり、クリスマス会などのイベントにスタッフとして参加。

8. 市町村担当者・認知症地域推進員との打ち合わせ

最終的に作業療法士が認知症に対して関わる事が出来る職種であり、かつ、地域支援事業への協力体制がありことが伝わり、次年度の市の事業体制に組み込んでいただけるようになった。